

富士重工業株式会社  
スバル部品用品本部  
用品開発部

宮嶋 朗さん

「ベンチテストなどによって確認された性能だけでなく、実走行によるフィーリングも開発では重視。軽い吹け上がり感、低フリクション感、追い風の中を走っているような爽快感があります」と宮嶋さん。



## スバルの基準を満たすために…… 耐久性試験

- ・オイルシール試験
- ・高温時の焦げ付き試験
- ・フィルターが目詰まり試験

エンジンオイルのテスト内容はスバル技術本部による連続 225 時間耐久ベンチテストをはじめ、オイルの性能を確認する多岐に渡るテストを実施している。そこでのチェック項目は上記に記した例だけではない。テストされたエンジンは完全に分解され、各部品の磨耗度などをチェック。その結果によってスバル純正の SUBARU モーターオイルとして認定されるのだ。



## 純正指定エンジンオイル・elf・レ・プレイードを知ろう! その1 スバルの名前が冠されるための ハンパないお受験内容を知る。

フランス語で「スバル」を  
意味する「レ・プレイード」が  
専用オイルをアピール

本文でも記したように、間もなく登場する新しい SUBARU モーターオイルが「SUBARU・elf・レ・プレイード・ZERO 0W-30」。ベースオイルに 100% PAO を使用した化学合成油で、硬いオイルと柔らかいオイルのデメリットを感じることなく、高いエンジン保護性能と優れた実用燃費性能を手に入れられる「プレミアム化学合成油」がコンセプト。オイルの性能に対して、かなりリーズナブルな価格設定を考えているという点にも期待が高まる。

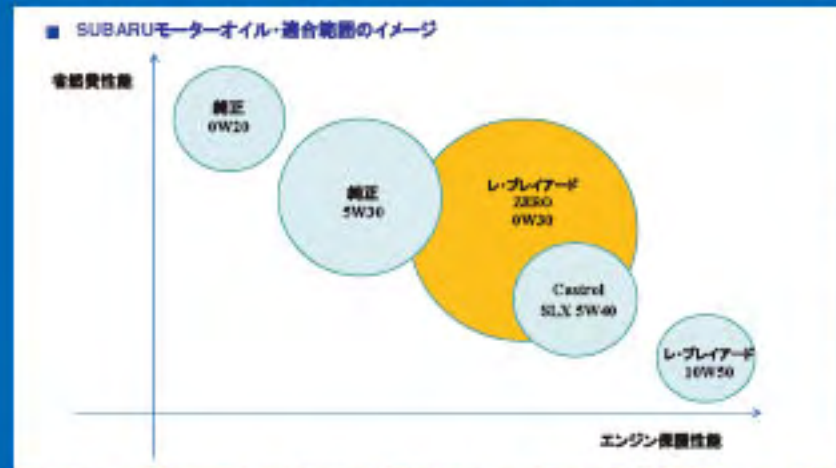


レ・プレイード スペシャルサイト: [www.pleiades-zero.com](http://www.pleiades-zero.com)

軽快な走りを生む性能を  
オイル本来の役割に追加

ボクサーエンジンというのは、ピストン往復運動が、文字通り水平方向に行なわれることからエンジンオイル選びには並々ならぬ注意が必要だといわれている。ましてターボエンジンであれば、高速回転するターボチャージャーの潤滑・保護という役割も含まれてくるからなおさらオイル選びは重要かつ難しいとよく言われるが、もっともボクサーという特別なレイアウトによる難しさというのは都市伝説的なもので、メーカーとしてはオイルリターンを確保するなど様々な工夫をしているので、特別なメンテナンスが必要ということではない。

とはいえ、保護性能を求めるとなると、ついつい硬いオイルを選びがちだ。あらためて確認すれば、エンジンオイルの硬さは●W■と記されるグレード(SAE粘度表記)の後半の数字が目安となる。たとえば 5W-40と10W-50という二種類のオイルがあったとして、後者のほうが硬いといえる。一方で、マルチグレードでは低温時の硬さを示すのは表記前半の数字とWの組み合わせと考えていい。最近では0(ゼロ)W-20といった柔らかいオイルが増えてくるが、これはオイルの無用な抵抗を減らすことによって省燃費性能を求めたもの。スバルの新しいFA型、FB型エンジンの指定オイルが0W-20となっているのは、こうしたトレンドに則つたもの。



高い保護性能、フィーリングに「省燃費」という項目をプラスすることで新しいオイルは、広いユーザー層をカバーする。

オイルを扱う富士重工業・用品開発部の宮嶋朗さんは次のように語ってくれた。

「現行レガシィのEJ型エンジンの場合は可変バルブリフトを持つ関係からNAエンジンであっても高温側の粘度が30番以上のオイルでなければなりません。ですから指定オイルは5W-30となっています。しか

し、低温流動性が良く、低温時ににおける保護性能、燃費、フィーリングに優れたオイルは、日常使用でのメリットがあります。そこで、高温域での保護・潤滑・作動といった性能を高いレベルで確保した上で、同時に低温域での流動性と軽快な使用フィーリングも追及し、プレミアム感を実感できるSUBARUモーターオイルとして開発しているのが「SUBARU・elf(elf)レ・プレイードZERO 0W-30」なのです。ターボ車にお乗りのお客様にもご使用いただきたいと思っております」。

elfといえはモータースポーツでは古くからおなじみのフランスのオイルブランド。スバルの純正オイルとしても10W-50というグレードの製品が以前から用意されているのは、ご存知の通りだ。そのelfとSUBARUのダブルネームを冠した新オイル「SUBARU・elfレ・プレイードZERO」は、当然ながら化学合成油であり、欧州自動車工業会によるACEA規定ではA3(耐久性)とA5(省燃費性)をクリアしている。さらに30番というグレードから保護性能を不安に思う向きもあるかもしれないが、一般的な0W-30オイルと比べて高温時の油膜が約20%ほど厚いというから安心感も増す。

そうしたスペックだけではなく、SUBARUモーターオイルとしての信頼性は、しっかりとしたテストによって担保されていると宮嶋さん。「スバル純正オイルとして認められるには、エンジンベンチ上での225時間耐久試験等の厳しいテストがオイル開発時に必須。本来のエンジン性能を十分発揮できると判定できなければSUBARUモーターオイルとして認められません。もちろんSUBARU・elfレ・プレイードZERO 0W-30はこれらのテストをクリアしています」。